

## 会 議 録

会議名	令和7年度第4回印西市地域福祉計画推進委員会 会議
開催日時	令和7年12月9日（火） 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	印西市文化ホール 多目的室
出席委員	松山毅委員長、矢野忠行副委員長、大下誠委員、嶋田孝雄委員、近藤幸一郎委員、岩本清委員、平野浩二委員、田畑一生委員、篠田吉範委員、塚田昌幸委員、佐久間郁美委員、御子柴寛委員 計12名
欠席委員	三島木健委員、笠井幸夫委員、鈴木幸子委員 計3名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 澤田課長、坂巻課長補佐、鈴木係長、本田係長、石井係長、山崎主査
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1 開会 2 議事 第5次印西市地域福祉計画素案について 3 閉会
配付資料	・会議次第 ・第5次印西市地域福祉計画素案

## 会議概要・審議経過

### 1 開会

【事務局】 「令和7年度第4回印西市地域福祉計画推進委員会」を開会します。

資料の確認、会議の公開と会議録作成のための録音、会議の傍聴について報告  
諮問 第5次印西市地域福祉計画の策定について  
【福祉部長から松山委員長へ諮問】

### 2 議事

【議 長】 議題に入る前に、会議録の署名委員を指名したいと思います。署名委員は名簿順に、田畑委員と篠田委員をお願いいたします。

#### 議事 第5次印西市地域福祉計画素案について

【議 長】 「第5次印西市地域福祉計画素案について」、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 議事について説明

【議 長】 何かご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

【委 員】 13ページの基本目標の表現が非常に優しい表現になってよいと感じました。基本目標2の文言は少しおかしいかと思えます。ここでは主体が役所となるものということかと思えますが、基本目標2は「支援をする人たちが地域とつながりながら、…強化を行います」とあるので、「支援をする人たちが地域とつながりながら」は削除して、「強化を図ります」としてはどうでしょうか。また、15ページからの重点取組と基本目標1～3及び基本施策との関連がわかりづらいです。最初に一気に出てくるので関係がわかりにくいのかと思えます。基本目標に付随する施策をまず網羅的に書いて、そして重点的なものを詳細に明示するというつながりで書いた方がわかりやすいのではないのでしょうか。

【事務局】 基本目標の2について、「支援する人たちが地域とつながりながら」でイメージしているのは多機関協働であり、連携しながら支援体制を強化するということです。もう一度検討します。また、重点取組の場所について、はじめは基本目標の中に入れる形で書いていましたが、読みづらいかということも考えて前にまとめた形です。後ろにまとめるか、中に入れるか、検討したいと思えますが、重点的なものということで前に示しました。

【委 員】 考えはわからなくはないですが、どうでしょうか。強調するという意図はわかりますが、全体の背景があって、その中の重点であるということが見えるとよいかと思いました。

- 【議 長】 確かに、位置づけはわかるとよいかとおもいます。違和感を抱く所ではあります。
- 【事務局】 もっともかと思えます。視覚的にわかるよう、第4章の冒頭で、どの基本目標にどの重点取組が紐づくのか図示しつつ、力を入れていく姿勢ということで前の方に記載すること自体はそのまま、という方向でいかがでしょうか。
- 【委 員】 そうですね。最初の文章で、重点取組と基本目標で「分かれています」とあるので、違うものなのか?と感じた所です。
- 【委 員】 基本目標1～3があって、それぞれに対する重点取組ということではあるかと思うので、話があったように変更してくれればと思います。
- 【議 長】 第4章がわかりやすくなるよう、全体のつくりを示してもらえればと思います。基本目標の中に重点取組があることがわかるように、ということです。意図としてはよいと思うので、わかりやすくしてもらえればと思います。他にありませんか。
- 【委 員】 全体を眺めて、今回第5次の計画ということで、5年間やってきたことの総括というものが、最初に何ページかほしいと思いました。4次で終わったら、0から5次計画を作る、ということではなく、ローリングを行っていくということかと思えます。当初予定していなかった、例えばパンデミックのような状況に対応したこともあるかもしれない、そうしたものについても5次につながるかもしれません。
- また個別には、福祉の観点からみると、最終的な受益者はある意味では弱者であり、どう対応していくのかということになります。素案中に「誰一人取り残さない」という表現もあったかと思いますが、響きはよいものの、きわめて大変な一言であり、そのためにどうしていくのかという重みがあります。対象者が情報発信してくれないかもしれないし、まちの中でそうした人が見つかるかという問題もあります。見つからなければ潜在的に積み残したことになるので、その辺りも改善していこうということで、課題が第4次計画から何か見つかっているのか、わかりやすいものを何か表現として加筆してほしいです。
- また、指標の目標値は検討中とのことですが、「民生委員・児童委員について、活動内容を知っている割合」という指標は、恐らくこの%は、実際に民生委員・児童委員とのつながりを必要としている人とそうでない人とでは数値が違うかと思えます。実態に合わないものが出てきかねないので、最終的に数値が大きかった小さかったということを考えるのであれば、対象者をどう設定して評価を得るのか考慮が必要だと思います。
- 【事務局】 「誰一人取り残さない」という点では難しいと思いますが、第5次では基本目標2「必要な人に必要な支援を届ける」の中で、アウトリーチということを新規で設けており、支援が届きづらいひきこもりやヤングケアラーといった方たちに支援を届けていきたいと思えます。
- 【委 員】 その方たちをどのように見つけるのでしょうか。発信しないかもしれませんね。声を上げてくれないかもしれません。そんな余裕もないかもしれない。ヤングケアラーは潜在的な量も一定いるのではないのでしょうか。体制を用意しているというだけでは足りない

と思います。サポートしていく側が一步入っていかないといけません。

**【事務局】** アウトリーチというものが、その手立てを考えている部分です。例えば学校の生徒に直接アンケートをとって、こどもから先生が吸い上げて子ども家庭課のセンターにつなげたりしています。やはり、自分から発信されない方へのアウトリーチというのは難しいと思いますが、地域の方や、居場所関係の活動、支部社協・民生委員等の活動から地道に拾っていくしかないかと考えています。

**【委員】** そこについて、今までと比べてよりよくなったかどうかということはどうのように評価するのででしょうか。

**【事務局】** 前提として、待つだけでなくこちらから出て行って支援を届ける必要がある、という課題意識がまさにあって、その対応として「アウトリーチ」という考え方が提唱されています。例えば地域の居場所に顔を出したり、情報を届けたりといったことです。これから新しく始めていく状況なので、現時点で評価を十分行える状況ではありませんが、アンケート等を通じ、例えば「相談できる人がいない」と感じている割合が低下するかなど、今後測っていければと考えています。

**【委員】** こうご期待ということと理解しました。

**【委員】** 支援が必要な方をどう見つけるかはずっと大きな問題です。見回りで訪問する際、高齢者の自宅の状況を見て、支援が必要だという情報を上に上げていくということが民生委員にも期待されています。アウトリーチという対応が積極的な対応で進められるなら喜ばしいですが、その人材をどう発掘するか聞きたいです。

**【議長】** どのように進めていくのか見えてこないということかと思います。現状考えていることを教えてほしいと思います。

**【事務局】** 担う人をどうするかは確かにこの素案の策定時も課内で議論になっています。アウトリーチと簡単に言うけれども、支援のSOSを発信しない人へのアウトリーチはやはり難しいかなと思います。今の居場所の中で、そうしたアウトリーチの役割を担う方を育てていくしかないかと思っています。生活困窮やひきこもりについては、まずそうした方がいらっしゃるという情報が必要ですが、ワーク・ライフサポートセンターが窓口になっているので、そうした所からアウトリーチをかけていく必要があるのではないかと思います。今後、アウトリーチに資する取組をつなげていければと考えています。

**【議長】** 本当は今のような部分について、アウトリーチの考えや、どのように要支援者を見つけてくるかを書けてもよいかもしれません。居場所が、相談の場でも集いの場でもあり、ということです。どういった意図で入れたのか、コラムのような形でもよいので入ってくると、アウトリーチや包括的な体制の持つ意味が明確になるかと思っています。書いてあることはその通りですが、専門家でないと汲み取りづらいので、工夫を検討してもらえればと思います。  
また委員から第4次計画の評価、指標についても話があったので、回答をお願いします。

【事務局】 成果指標については、現在は検討中ではありますが、各数値の向上を図っていきます。各指標、10ポイント程度上昇すれば効果があると考えています。第4次計画の評価の総括については検討していきたいと思います。

【議長】 9ページ、「印西市の地域福祉を取り巻く現状」の中で、リード文2行目に「アンケート結果等」とある中で、第4次の進捗評価もやっているかと思うので、何を根拠としているか明確になるとよいかと思います。計画の総括や調査・ヒアリングということを書いてもらい、具体的な内容は資料編に示すといった対応で工夫してもらえればと思います。また、評価も普通はPDCAの図のみで終わるところ、35ページを付けて、進捗管理するという事で意欲的であるかと思います。評価の指標や観点ということであれば、近所の関係性が深まったかなど、どういう観点でこの計画の進捗を見るのかという話かと思います。そうすると、市民のことだけでなく、関係各課での横断的な取組が進んだかなどの点もあります。市役所内部の変化を測れる指標もあるとよいかと思います。そのほかにありますか。

【委員】 前回は話したと思いますが、中々いいものが上がってきているという実感はあるので、もう一歩だと思っています。避難行動要支援について、全国的にこの制度が定着していません。その理由があると思いますが、この印西市の近くの市町村では、これに取り組んでいない市町村があり、その辺を考えないといけません。これは、支援の必要な方と支援をする人が災害時には両方とも被災者であり、現実に計画を作ったとしてもそれが実現できるかというのが一番大きな問題だと思います。8月の末頃、3.11で津波被害のあった地域に研修に行った際、現地の民生委員と話してきましたが、自分たちも様々な被害を受けているのに、支援を必要としている人たちの所には行けない、ということをしきりに言っていました。自分のことは自分で守ってください、また、近所と無事だったか確認できる関係を作ってください、ということをお話しているそうです。これは実感なのだろうと思います。亡くなった人が数多くいて、何か災害があったら自分のことを守ってくださいということに方針が変わってきていると思います。その中で、20ページにこのように書いてよいのだろうかという疑問があります。書くのであれば、自分の命は自分で守るんだということ。このような一言が計画に入るかは難しいですが、取組として強調しすぎても、実現できないと思います。また、それに関連して、取組のNo.26「地域における防災活動等の推進」の2行目に「組織間の連携を推進します」とありますが、これは具体的には、避難所ごとの自主防災組織の連絡会をつくらないとできません。今日は防災課がいないですが、ずっと言われており、全く進まない状況です。連携についてより具体的に書いてもらわないとよくわからず、できないと思います。

【事務局】 No.26の取組については、第4次計画からの継続で、具体的な所が詰まっていないのはご指摘の通りだと思います。防災課の取組としては経費・活動費の助成や、意識啓発活動が具体的なものです。また、避難行動要支援者対策の推進については、問題として、支援する方を地域で見つけるのがなかなか難しいということをお話しています。これについて、現在社会福祉課では防犯・防災の中で何をやるかと検討しており、個別避難計画作成率を10ポイント上げることは難しいと思いますが、重点取組としてはこのように設定しました。

【委員】 支援する方も被災者ですよということ。実際にやっても意味がないということで、やっていない市もあります。自分が被災しているのに助けにいけるか、ということを使う所です。机上の計画だけ作っても意味がないと思います。また、防災課に言ってほしいですが、避難所ごとの、近くの自主防災組織に対する連絡会をやらないと、実際の運営は地域の人がやることになるのだから、被災時に避難所を開けません。これをしない理由を聞いておいてください。

【議長】 計画としてはこうした表記は一般的ですが、実際に委員は民生委員もされている実感ということで、その通りかと思えます。個別計画を作ることが目的ではなく、実際に支援する側に登録してもらう中で地域とのつながりを作るなど、プロセスが大事ということです。実際に助けにいけるかはそのときの状況ということになりますが、計画を作ること自体が目的とならないよう意識してもらえればと思います。また、防災課への意見も伝えてほしいと思います。委員にまずモデル的に取り組んでもらうのがよろしいのではないのでしょうか。そのほかはありますか。

【委員】 3ページ中段に図があります。今回、地域福祉計画の下に柱があり、第4次計画までは成年後見制度の計画も含めていましたが、それを上に加えた意図はあるのでしょうか。

【事務局】 本来地域福祉計画と一体的に策定することが望ましいとの考えで、地域福祉計画の中に含めています。

【委員】 イメージとして、成年後見制度も同じ柱として並んだ方がしっくりくるかと思いました。格上げされたような印象があり、変なメッセージがあるような気になるので、法的な位置づけがないのであれば、元の形がよいかと思われました。またもう1点、目標という言葉の使い方がふさわしくないように思われ、「基本方針」という表現がふさわしいかと思えます。目標というと、評価できないといけません。さらに細分化すると、重点施策の中にも「目標」という語が出てきて違和感があるので、「基本方針」とするのがよいのではないのでしょうか。また、次の14ページで、委員が言った通り、ラインナップが示されていません。第4次計画ではそのようになっており、その表現はそのままでよいのではないのでしょうか。また、17ページは、20歳の娘に見てもらったときに言われたのですが、「ポイント」と「%」という表現が混在しており、「ポイント」が何のことかわからなかったようです。皆さんの中では普通に使う表現ではあると思いますが、使わない方がよいと思いました。また、取組のラインナップを見ると、新規の取組が多く、意欲的なものが盛り込まれていて素晴らしいと思いました。新規のものは特に重点取組のように詳細がないように見えますが、第4次計画では新規のものには説明があり、そのようにしてもよいかと思えます。また、31ページで、この会議体は年齢層が高いのでこどもの話があまり出ませんが、No. 41について、日本はインクルーシブという点では後れをとっていると言われがちの中で素晴らしいと思っています。ただ、内容が公園を整備となっているので、今ある福祉施設とコラボしてイベントをしたり、交流を図ったりということ、またそれにインセンティブを付すということの方が有効だと思います。公園を作ったからといって属性を超えてごちゃまぜに遊ぶということはイメージが

かないです。

【議 長】 貴重なご意見ありがとうございます。改善できる所は改善していきたいと思います。

【委 員】 何点かあり、わかる範囲で教えてもらえればと思います。16ページの重点取組「孤独・孤立を防ぐ居場所づくり」が新しく入っていて、これは重層的支援体制整備の中で行う考えでしょうか。また、No. 21の取組「地域包括支援センターの機能強化」は、生活支援コーディネーターの強化という内容に思えたので、名称を検討してほしいと思います。33ページ、地方再犯防止推進計画という新しく位置づけられた内容が、唐突に出てきた感じがするので、その必要性や趣旨があった方がよいかもしれません。また、成果指標については5年後にアンケートで測るということですが、中間年度でアンケート等を行う予定はあるのでしょうか。

【事務局】 1点目については、重層的支援体制整備は相談支援・参加支援・地域づくりを一体的に行うものなので、これを進める中でもこの居場所づくりということは使えると考えています。また2点目はおっしゃる通り生活支援コーディネーターが地域福祉の中心的役割を担うと考えており、第2層で地域包括支援センターに生活支援コーディネーターがいるので、その方たちの協力を得て、その人たちが作っている社会資源マップを活用して地域福祉推進を図りたいという考えです。3点目は検討します。4点目は、やはり5年に1度のアンケートになると考えています。

【委 員】 3点目は、取組名はそのままということでしょうか。内容と乖離があるかと思います。

【事務局】 高齢者福祉課と協議します。

【議 長】 一般的に地域包括支援センターと聞いてイメージするものからすると、この内容はその一部であり、誤解を生じる可能性がありますということで、工夫してもらえればと思います。

【委 員】 大したことではないですが、これはカラーで刷るものなのでしょうか。また、そもそも刷るのでしょうか。加えて、これを見て、深く読み込めていなかったと反省しましたが、6つの重点取組というものがはっきりしていたので具体的でわかりやすくよかったなと思いました。また、皆さまの話を聞くと、ヤングケアラーやアウトリーチについて、言葉の理解というものもこの中でもうまく通じていない所もあるかと思うので、専門用語らしいものはわかりやすい取り扱いがあるとよいかと思いました。また、細かいですが、再犯防止の推進の中で取組No. 51の「医療や福祉サービスの利用促進」について、福祉サービスを気軽に利用できるよう、と説明があり、社会福祉課が担当となっています。普段は基幹相談支援センターで総合相談窓口対応をしているのですが、一定程度、罪を犯す障がいのある方あるいはそれが疑われる方はいて、保護司と関わるケースも何ケースもあり、対応の難しさもあります。担当欄については、障がい福祉課など多岐にわたるものにしてもらえるとよいかと思いました。

【事務局】 1点目について、成果品は表紙がカラーで中身は1色刷りです。ただ、概要版はカラーで作成します。冊子は300部、概要版は1,000部を予定しています。また、再犯防止のご

指摘の取組については、担当に障がい福祉課を加えたいと思います。

【議 長】 現在の紙面には余白があり、イラスト、いんザイ君、コラムを入れるなど工夫してほしいと思います。そのほかはありますか。

【委 員】 3つあります。1つめは、私は学校に勤めているのですが、先ほど学校にアンケートという話がありました。もし学校に何か依頼するという考えがあれば、本当によく考えてもらいたいと思います。学校は多忙感に苛まれています。担任が一番よく子どもの様子はわかっていますが、アンケートをとってどう集計させるか等のことをよく考えてほしいです。また、中学生になると、自分がヤングケアラーになった際に本音を言わないかと思うので、一度学校関係者や教育委員会の指導課に相談してほしいです。また、2点目として、先ほどから意見がありましたが、「アウトリーチ」など言葉が難しい中で、単純に、この冊子は誰に向けて作るのかということです。自身は学校に勤めているので、中学生や高校生にもわかる内容にしてもらえると、高齢者にもやさしいわかりやすいものができるのではないかと思います。市長が中学校を訪問して、中学生から意見を吸い上げて反映させようとしてくれているので、中学生くらいからこうしたものにも関わられるよう、配慮してほしいと思います。もし子どもたちにわかりやすいものとするなら、話の筋道や資料の流れとして、市民にとってアンケート結果の実態が載っていますが、こうした状況があるからこうした目標を立てました、そしてその目標の達成のために重点取組を設定しましたということが一目でわかるものがあるとよいと思います。また、岩本委員から被災地の話があつてごもっともだと思いましたが、避難訓練を我々もする際は、小学1年生に「自分の身は自分で守る」ということを言っています。周りにお世っかいをしてくれる人が多くいればよいですが、自分の身は自分で守るということです。では、障がいのある人がそうするためにはどんな支援をすればよいのかという点で、ひょっとしたらお金が重要なかもしれません。行政でそうした点を整理してほしいと思います。

【事務局】 ヤングケアラーの支援についてはこちらでも確認します。庁内ワーキングで、実際に行っているという話であり、掲載しましたが、実際に市内でどの程度やってるか等は確認不足だったので確認します。また冊子の内容は、骨子段階から難しいということは考えていましたが、一般市民にわかりやすくするという点は概要版の方で工夫し、誰にもわかりやすいものとしたいと思います。冊子の方はある程度専門知識がある人が手に取る想定で考えています。

【議 長】 未発言者からもお願いします。

【委 員】 計画を実行していく上での問題ですが、「印西市は福祉が充実している」という発言が先ほどあったかと思います。介護が必要な方等に関し、市内の施設や在宅の設備の現状では、どこでも対応できるとはとても言えません。また第5章の指標の進捗管理をするということで、下から3番目の「生活上の心配事や困り事について『相談できる人がいない』割合」というものについて、相談できない人はこのアンケートに答えていなかったのではないかな、と思います。安易にこの%が減ったということでは状況を捉えられ

ないかと思うので、検討してもらえればと思います。

**【委員】** 基本目標3のNo. 50からの部分、「再犯防止の推進」ということで、「地方再犯防止推進計画」と明記してもらい、ありがとうございました。前は全く明記がなかったので安心しました。若干説明は足りないのかなと思います。なぜ福祉計画に入ってくるのか、記載がほしいです。現在、国では令和5年から令和9年までの第二次の計画の中で、就労・住居の確保などが示されており、素案ではそれを踏まえたのかと思います。その他、「学校等と連携した修学支援の実施」「犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導の実施」などが国の計画に入っており、文言を入れてもらえればと思います。地域福祉の範囲が多岐にわたるので、第5次計画でも引き続き難しいのだなと感じていました。また、横ぐしを通すという話がありましたが、市だけでは難しいと思うので、国・県との連携ということも入れてはどうでしょうか。また、民間企業等との連携も入れて総合的な福祉としてはどうかと感じました。

**【委員】** 自身の業務に関係する所があったので詳しく知りたいのと、1点感想を述べます。第2章「印西市の地域福祉を取り巻く現状」の中で、ちょっとしたことについてのニーズが高いということが何か所か出てきて、買い物や電球の交換などが並んでいます。シルバー人材センターでは、家事援助・家事支援ということで業務として対応しています。自身の中では、どれが多いとかどれが少ないという感覚はなく、大体同程度の頻度ですが、一方この素案では、買い物支援策の検討及び実施ということでスポットを当てているようなので、これが圧倒的にニーズが高いということで重点取組としたのか、聞きたいです。また、感想として、シルバー人材センターも高齢化しており、平均年齢は75歳となっています。意欲はあっても体力的に働けない人が出ている状況です。1人で1つの仕事ではなく、そもそも高齢者に依頼する仕事は多くないので、みんなで分け合っただけで対応するグループ就業ということに取り組んでいるのですが、そうすると、体力が落ちると皆と同じようにできず迷惑をかけるので会員をやめる、ということで退会者が多くなっています。体力がない方でもできるような働き方や環境を変えていかなくてはならないのではないかと考えています。買い物やゴミ出しは比較的体力がなくてもできることであり、ニーズが高いと書いてあるので、行動に移していかなくてはと感じました。

**【事務局】** 30ページの該当の箇所については、地域の中で高齢者の孤立が気になるということが地域懇談会の中で挙がっており、移動支援や買い物支援、ふれあいバス等の公共交通の利便性向上ということを記載しました。買い物支援については、市長の発信もあり、重点施策として設定した所です。

**【委員】** 24ページの「活動の後押し」の中で、No. 12「活躍できる場の提供」の担当に経済振興課と入っています。「高齢者が自身の能力や意向に応じて地域社会で活躍できる場の提供」と書いてあるのをみて、商工会としても、65歳以上が勤務している会社等に対して退職後の起業等に向けたスクールを開催するなど、こうした年齢層をターゲットにした取組を考えてもよいなと参考になりました。また、専門外ではありますが、No. 28の「海外にルーツを持つ人の防災の推進」は、印西でも外国からの人が多くなっていて文化圏も色々で、多言語の案内など書かれています。何かあったときに避難所の運営等で気

を付けなければいけない点もあるのではないかと感じました。また、No. 47の「自殺対策の推進」という所で、文言を直してほしいということではないですが、潜在的な助けを必要としている人にどうリーチしていくか。例えば精神的に追い詰められている人は、外部とのつながりを切ってしまうような、自身でもどうしてそうなっているのかわからないまま、わかってもらえるはずもないということで接触を断っていく方もいらっしゃるかと思います。最終的に表面に出てくるといって、本当に切羽詰まった所まで来た段階で、人とのネットワーク等でなく、医療機関の世話にならなければならない状況なのではないかと思っています。そこで初めて医療機関に電話をかけるといっても、心療内科や精神科も利用者が多く、すぐの対応ができなかつたりするかと思います。何か行政の方で、医療機関にお世話になることがすぐには難しい場合に、行政を頼って一報するとつないでもらえるような仕組みがあれば、薬を飲むなど対処ができるのではないかという気がしました。この取組は健康増進課が担当とのことですが、市内の医療機関等の管轄ということかと思っています。総じて、効果的に計画が運用されていけばよいなと思いました。

**【議 長】** そろそろ時間が迫っていますが、全体で何かありますでしょうか。

**【委 員】** 17ページの重点取組2「民生委員児童委員の活動しやすい環境づくり」の件で、「活動しやすい環境づくり」と重点取組に掲げると、何か今は活動しづらいのかという印象を与えます。趣旨はわかりますが、表現を変えてほしいです。また、関連して、目標として充足率がありますが、それを上げればいいのかというと本来の目的からは違うと思います。これでも悪くはないですが、パーセンテージを上げればよかったなということではないと思います。

**【議 長】** そのほかはあるでしょうか。地域福祉は、声を上げられず孤立している人だけでなく、一般的な市民の活動や健康など、全市民が対象のものです。その中で、福祉なので、特別な事情を有している人にも配慮するという事です。また、横断的な対応が求められる潮流となっており、成年後見についても、権利擁護は本当はすべての人が対象となります。個別計画の1つなのか、横ぐしとなるものなのかという点があり、横断的である方が効果的ということもあります。併せて、庁内だけでなく民間との連携もあり、福祉の総合計画であるものです。大変苦労もあると思いますが、事務局内でも庁内検討を進めて、内容的にも優れたものになってきていると思います。これは1つの計画なのでどう進めていくかはこれからですが、計画がないと始まらないので、あと一息という所です。計画についての議論は以上とさせていただきます、事務局にお戻しします。

その他

**【事務局】** 議事進行ありがとうございました。皆様には長時間貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。今後、パブリックコメントを実施し、委員の皆さまにも同様のものをお送りし、ご意見を頂戴できればと思います。また、次回は令和8年2月9日午後2時からの開催を予定しています。近くなりましたらお知らせします。以上で「令和7年度第4回印西市地域福祉計画推進委員会」を閉会します。

令和7年度第4回印西市地域福祉計画推進委員会会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和8年 1月 30日

署名委員 田畑 一生

署名委員 篠田 吉範